



ヨーバル®
プライムEV
箱粒剤

米づくりに、
感動の
フィナーレを!



大型包装
9kg入



1kg入

キレイなお米のヒケツは、
「紋枯病」の防除にありました。

- 紋枯病に有効なエバーゴル® (ペンフルフェン)
- いもち病に有効なルーチン® (イソチアニル)
- 初期害虫・チョウ目害虫に有効な
ヨーバル® (テトラニプロール)



慣行播種
箱当り
50g

高密度播種
箱当り: 50~100g
(1kg/10aまで)

®ヨーバル、®ルーチン、®エバーゴルはバイエルグループの登録商標



いもち病

紋枯病

イネミスゾウムシ

イネドロオウムシ

ニカメイチョウ



製品情報はこちら

ヨーバル プライムEV 箱粒剤

農林水産省登録：第 24475 号

有効成分：テトラニプロロール…1.5% 殺虫剤分類 28

イソチアニル…2.0% 殺菌剤分類 P3

ペンフルフェン…2.0% 殺菌剤分類 7

性状：類白色細粒

毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指すという通称）

1

水稲の主要病害虫に優れた効果

- いもち病防除の定番「ルーチン®」(有効成分：イソチアニル)、紋枯病防除剤「エバーゴル®」(有効成分：ペンフルフェン)、新規ジアミド系殺虫剤「ヨーバル®」(有効成分：テトラニプロロール)の3有効成分からなる水稲育苗箱専用剤です。
- 水稲の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、イネミスゾウムシ、イネドロオウムシ、チョウ目害虫のニカメイチュウやコブノメイガ、フタオビコヤガに優れた効果を発揮します。

2

優れた浸透移行性と長い残効

イソチアニル、ペンフルフェン、テトラニプロロールはいずれも浸透移行性に優れ、長い残効性を有します。

3

は種前、は種時から移植当日まで使用可能

覆土、床土混和、は種時覆土前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

4

高密度播種へ高い適用性

高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)

適用病害虫および使用方法

(2021年10月現在)

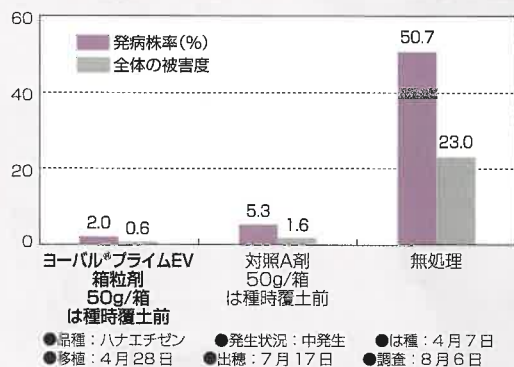
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミスゾウムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種前	本剤：1回 テトラニプロロール：1回 イソチアニル：3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回) ペンフルフェン：1回	育苗箱の床土 または 覆土に均一に混和する 育苗箱の上から 均一に散布する
	紋枯病、白葉枯病 イネドロオウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ、イネツトムシ フタオビコヤガ ツマグロココバイ イネヒメハモグリバエ イナゴ類	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)	は種時(覆土前) ~移植当日		
		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前 ~移植当日		
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)			
	内類褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)				

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示します。

試験成績

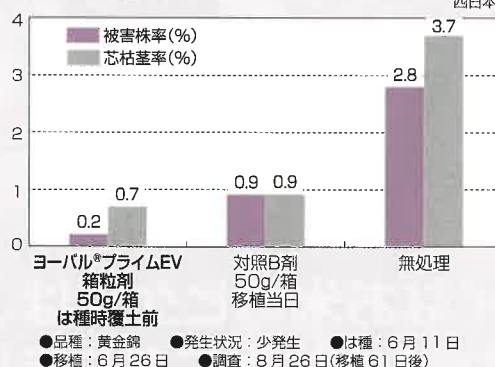
紋枯病に対する効果

2019年 福井県植物防疫協会



ニカメイチュウに対する効果

2019年 バイエルクロップサイエンス㈱ 西日本試験室(高知県)



注意事項

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱枚数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本剤処理後の極端な低温または高温条件下で薬害を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめて下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かき丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。

- いくさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいくさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけて下さい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手洗、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないで下さい。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 水産動物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

◎播種同時施肥機や田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

- 使用前にはラベルをよく読んで下さい。
- ラベルの記載以外には使用しないで下さい。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00,13:00~17:00
土日祝日および会社休日を除く

(F-2132 21.10.jeki)